

遊びは 幼児期にふさわしい学び

*本リーフレットでの「幼小」は、「幼児教育と小学校教育」を意味します。
また、幼稚園教師、保育教諭、保育士等を総じて「保育者」と表現しています。

幼児教育の基本 (※)

幼児期の特性を踏まえ**環境**を通して行うものであること

Check 2 環境の見直しが計画的に行われていますか？

「環境を通して行う教育」は、自分から興味をもって環境に関わりながら、様々な活動を展開し、充実感や満足感を味わうという体験を重ねていくことを重視します。幼児の主体性が何よりも大切にされている教育であり、「幼児側の視点から見れば、自由感あふれる教育である」と言えます。

このようなことは
ありませんか？



- ⊗ 物的環境が1年中ほとんど変わらない
- ⊗ 遊び道具は玩具や固定遊具中心である

重視すべき事項 (※)

- 1 幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること
- 2 遊びを通しての総合的な指導が行われるようにすること
- 3 一人一人の**特性**に応じた指導が行われるようにすること

Check 1 「各解説本」を園所内で活用していますか？



幼稚園教育要領解説 (※)



幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説



保育所保育指針解説

これらは、全国的に一定の教育水準を確保するための国の規定です。幼児教育の指針として一層の整合性が図られています。



保育者



幼児期に「ふさわしい」って
どんな保育をすることですか？



指導主事



それは小学校教育の先取りを
することではありません！

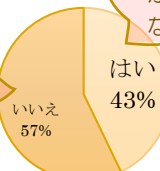
教育要領等には「小学校教育の先取りをすることではなく、就学前までの幼児期にふさわしい教育を行うことが最も肝心なことである」とあります。幼児期の発達の特性を理解し、遊びを中心とした生活の中で、幼児をどう援助していくのか、保育者としての専門性を高めていくことが強く求められています。

Check 3 「自発的な活動としての遊び」の時間が十分に確保されていますか？

Q. 午前中の「自由遊びの時間」は、
学級や学年のみんなが
登園して揃うまでの待ち時間になっている

遊びの時間が少なく、
保育者が設定した一言活動
が多いです。園の方針をなか
なか変えられなくて…

遊びの時間を大切に
確保しています。
でも、ただ遊ばせている
だけでいいのか不安…



令和3年度「山形県幼児教育アンケート」(義務教育課調べ)より



教育要領等には「幼児の自発的な活動としての遊びを中心とした教育を実践することが何よりも大切である」とあります。もちろん、幼児の主体性を重視する余り、「ただ遊ばせているだけ」でも、教育は成り立ちません。園長先生のリーダーシップのもと園内研修等の充実を図り、自発的な活動としての遊びを生み出すための環境(物的・人的環境)の在り方や教育課程の見直し等を協議し、園内の共通理解と協力体制を築いていくことが大切です。



不安定で泣いてばかりの子供がいて
気になっています。

Check 4 一人一人の発達の特性を肯定的に捉えていくために、園内研修や保育記録の実践をしていますか？



多面的な幼児理解には、保育者同士、そして家庭との連携が重要です！

幼児理解とは、幼児の行動を分析して、この行動にはこういう意味があると決め付けて解釈をすることではありません。まして何歳にはこのような姿であるというように、何かの基準に照らして評定することでもありません。幼児理解を深めるには、日々の記録やエピソードを生かし、複数の保育者で互いに考えを突き合わせていくことが不可欠です。園内研修等のもち方を工夫し、生活や遊びの具体的な姿を出し合いながら、幼児一人ひとりを多面的に捉えていきます。保護者への発信の工夫も含め、組織的な取組みが必要です。

子供たちは、材料コーナーにあるものを使って、車づくりを始めました。本物の車らしさを追究することを楽しむ子供たちの姿を、この子たちの今の「育ち」として感じ取った保育者は、子供同士のやりとりをつないだり、一緒に場を構成したりしながら、遊びの展開を共に楽しみました。子供たちは「まっすぐ、長く走ること」にこだわり、車のつくりや場の構成の試行錯誤を繰り返しました。

走らせて
みたいなあ

タイヤを
変えてみたぞ



#車#箱材#ペットボトル
#キャップ#布テープ



環境とは、子供の好奇心「やってみたい」を引き出し、子供の思考「試したい」などを後押しするものです。子供本来の主体性を発揮するに足る素材や道具の準備、そして、子供の思いを汲み取りながら共に遊ぶ保育者の存在は、欠かせません。

小学校側は、幼児期の「環境を通した教育」への理解を深めながら、発達の側面から子供の学びについて再考し、学習環境の見直しにつなげましょう。



Q 夢中になって製作していたと思ったら、遊びが続かず、転々としてしまい、援助に悩むことが多いです。



A キャップの色で分けて
しまっておこうよ!

この形のキャップ
使ってみよう!
まっすぐ走りそう!

明日も続き
したいなあ♪



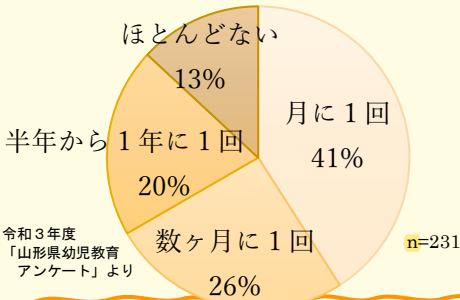
どうやって
長く走るんだろう

本当はやりたいことがあったのに子供だけでは続かないこともあります。自由に遊びながら、子供は様々な方向にイメージを膨らませているはずですよ。

目や体の動き、言葉や表情などから、心の動きを見取り、声を掛けたり道具や場を提案したりするなど、日頃から子供の思いに寄り添った援助を実践してみましょう。

片付けの姿からも一人ひとりの満足感、明日への期待、思考を巡らしている様子が伝わってきます。片付けは、場をきれいにすることだけではなく、幼児を見取り、次の援助につなげる大切な保育場面です。幼児主体の保育を実践するには、十分な時間設定が必要です。

遊びに関する園内研修等の頻度



あ、そうだ!
ガムテープを貼ろう!
どこまで進むかなあ…

#坂道#長板
#ビールケース



坂をつくって
走らせるぞ

遊びながら思いを巡らせたことや気づいたことを自分なりに試し、楽しむ過程に、その子らしい学びの姿が見えます。



園の実情に応じながら、幼児の生活の中心である「遊び」の姿を保育者間で共有する機会を定期的に工夫してもつことが、保育の質向上の第一歩です。保育の根幹である幼児理解を深めるために園内研修の機会を設け、指導主事等からの専門的な助言を参考にしながら、遊びを通して幼児を多面的に捉えられるようになっていくことが大切です。

園庭にある草花を使っての色水づくりが大好きな子供たち。朝顔の花を見つけると、すぐにビニール袋を保育室から持ってきました。自分なりに試したり工夫したりしながら、やりたいことにどんどん夢中になっていく姿がありました。「次はどんな道具を準備しておけば子供たちの思いが繋がるかな」と、保育者は、一緒に遊びながら、子供の心の揺れや育ちの方向を見取り、次の援助を見通していました。

お部屋に
いい袋があったよ



#水 #透明な袋
#大きなたらい

今日は、
ジュース屋さんを
やりたいな

「環境を通して行う教育」とは、道具や素材を配置して、後は幼児の動くままに任せるといったものとは異なります。環境を保育者が取り出して、直接幼児に押し付けたり詰め込んだりするものでもありません。

例えば保育者は、「色の美しさや微妙な色の違いに面白さを感じながら、自分なりに遊びを進める楽しさを味わってほしい」と願うからこそ、色がよく見える容器を用意し、色水に適する様々な草花がいつ頃咲くかと考え、幼児の遊びを予想しながら植えておくのです。一人ひとりの育ちへの願いを環境に込め、幼児にとって魅力のある環境を計画的に構成することが大切です。

あそこの
お花がよさそう！

うん！
でも、届かないよー



揉んだら色が出たあ♪
お日さまがあたって
きれいだな



見てー！
こうすると
色出るよ！



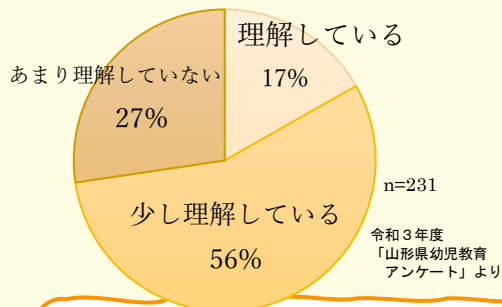
周囲の環境に幼児自ら好奇心をもち、積極的に関わりながら新たな発見をしたりもっと面白くなる方法を考えたり、そして実際に試してみたりする中で、思考力等が育まれています。



友達と一緒によりも
一人で遊ぶことを好む子供が
少し気になります。



幼稚園教育要領等の理解について



友達と関わっていればそれでよいということではありません。遊びが教師の期待通りに展開しているからといって、発達に必要な経験をしているとも限りません。逆に、友達との直接のやり取りはなくとも、その子なりに周囲と関わりながら自分の遊びに没頭し、充実感や満足感を味わっていることもよくあります。

大切なのは、一人ひとりが主体的に遊んでいるかどうかを見極めることです。友達と遊んでいる姿、一人黙々と何かをしている姿などから、それぞれ何が楽しくて遊んでいるのか、そこでどんな経験をしていて何が育っているのか、遊びの意味の見取りが重要です。

この結果をさらに、各職層との相関から分析してみました。すると、「管理職・担外主任」に比べて、「担任・副担任」の方が幼稚園教育要領等をあまり理解していない（と感じている）、ということが分かりました。加えて、「園外研修への参加が多いほど、教育要領等への理解度が高くなる」という結果も出ました。

A児たちは、保育室に残っていた片段ボールを廊下の壁に貼り付け、園庭で拾ったどんぐりを転がして遊び始めました。夢中になって何度も試すA児たちでしたが、廊下は他の子供たちもよく通る場所のため、土台の積み木が倒れるなど、少し落ち着かない様子も見られました。A児が「もっと長くしたい」と叫んだことをきっかけに、保育者は、「もっと広い場所を探してみる？」と声を掛けました。

どんぐりころがった！



片段ボールは、以前別の遊びに利用されていたものでした。「環境を通した教育」を豊かに実践している園では、素材や道具の特徴を幼児自身が引き出し、創造的に遊びを展開する姿がよく見られます。

コトコトと音を出しながら不規則に転がるどんぐりが面白くて遊んでいましたが、やがて、コースを長くすることにこだわり出すと、「もっと転がるものいい」と、新たな道具を探す姿が見られました。

保育室の材料コーナーからビニールテープを持ってきたり、ペットボトルのキャップを2個貼り合わせたりしながら、子供たちは思い思いに試し、場を行ったり来たり何度も繰り返し遊びました。

キャップすごい、転がる、転がる！



テープの方が転がるよ！

布テープ # 片段ボール

4歳児は遊びのイメージが豊かになり、同時に友達を求め始める時期です。

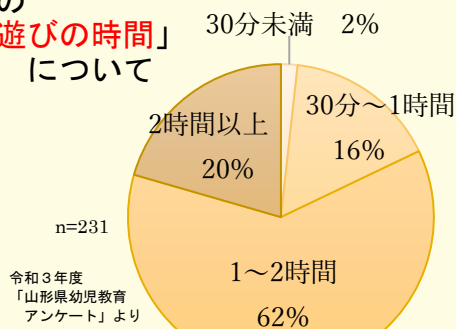
一方、やりたいことのすれ違いから友達とのいざこざが増える時期でもあります。保育者は発達的な特性を踏まえつつ、双方の思いを十分に受け止め、互いの思いが伝わるように援助することが大切です。

分かれ道にしようよ！

どうしてそこに貼るの？



午前中の「自由遊びの時間」について



園の物的環境はどのように構成されているのでしょうか。例えば、使い方が決まっている既製品や玩具等が多かったり、1年中同じものが配置されていたりなどと、素材や道具が発達に応じて精選されていない環境では、遊びも友達との関わりも固定的なものになりがちです。

発達や遊びに応じて、幼児が自由に見立てたり形を変えたりすることのできる応答性のある素材（身边材）を、準備したり提案したりするなど、適宜、環境を見直していくことが大切です。

「幼稚園の教育時間は4時間を標準とする」と、幼稚園教育要領で規定されています。つまり、登園してから初めの4時間、すなわち、午前中からお昼過ぎくらいまでの時間というのは、**幼児にとってのゴールデンタイム**であり、教育要領に基づいた質の高い教育が求められる大切な時間帯の一つと言えます。

グラフの通り、幼児が自由に遊べるのは「午前中に1~2時間（62%）」が最も多い結果でした。しかし、午前中「1時間、自由に遊べる」と「2時間、自由に遊べる」とでは、だいぶ印象も違いますし、1時間も違えば、幼児の活動の質や遊びの豊かさそのものにも影響しているはずですよ。

やや少数ではありましたが、「午前中に2時間以上確保している（20%）」という園もありました。時間的な視点だけで保育の質を決めることはできませんが、幼児の特性を理解しつつ、「自発的な活動としての遊び」を保育の中心にするという教育要領等の趣旨を踏まえれば、**ゆったりとした十分な時間設定は非常に重要な視点**と言えます。自園の**教育課程の見直し**を、**定期的に**図っていきましょう。

水だ！火を消すぞ！

3歳児

11月

登園してきてすぐに「消防隊になりたい」とB児。保育者と一緒に消防隊の服や道具をつくると、やがて気持ちは外へ向かいました。「火事だ」「水だ」と叫びながら一番大きなペットボトルを手に取ると、砂場に水を流し始めました。「水を出す(流す)ことを存分に楽しめるように」と願った保育者は、雨樋等、道具や場所の提案をしました。B児が水をどんどん流して遊んでいると、そこへいろいろな友達が集まってきました。

1日目

消防隊だ！
水で火を消せー

#水 #ペット
ボトル #4歳



遊びの展開には、たっぷりの時間、道具、素材、空間が必要です。保育者は、幼児が実現したいことを捉え、思いやイメージを生かしながら環境と一緒に構成していきます。



Q 遊びながら何かを学ばせたり気付かせたりさせなければという思いが強くと、指示的な声掛けの援助が多くなってしまいます。



2日目

#水を流す



#ビールケース #雨樋

A 「遊びの中で学ぶ」を意識し過ぎた結果、遊び本来の面白さが失われたり幼児の思いからかけ離れてしまったりすることがよくあります。遊びの中での行為はその子の育ちそのものです。幼児に信頼を寄せ、「その子のやりたいこと」「楽しんでいること」「感じていること」等の内面の動きを見取る専門性を、互いに高めていくことができるよう、園内での取組みを工夫していきましょう。

3日目

あれ？
昨日の水がない



海に船を出すぞ！

ぼくに
まかせて！

保育者がB児（消防隊）と一緒に遊びを展開したことをきっかけに、砂場という場所が、幼児たちにとって意味のある遊びの「場」となりました。幼児それぞれに遊びのイメージや目的、やりたいことが生まれていますが、「水を流す」「溜める」等の場の状況を緩やかに共有しているところに、この時期らしい、他者との関わりの姿を感じます。

2日目



火を消すぞっ！
水だあ！

わたし、ここ持つ！
(お水、面白そうだなあ)

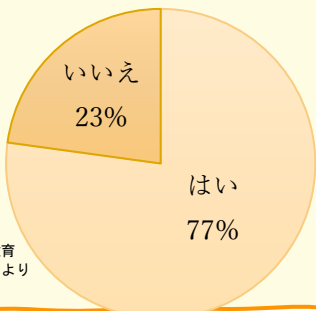
海ができるまで
工事中にしよう

水がとっても
冷たいピョン！
(うさぎ)

海ができた！
気持ちいい！

“ジャブジャブ”

「自由遊びの時間」が1日の保育の中で最も大切な時間



n=231

令和3年度
「山形県幼児教育
アンケート」より

「英語学習」「探究学習」「ICT」などの言葉を、昨今よく耳にするようになりました。では、質の高い幼児教育とは、どのような教育を指すのでしょうか。「何かを学ばせる」と、保育者が「幼児期の学び」を狭く捉えてしまうと、保育者主導の「結果中心の活動(できる・できない)」が保育の中心として位置づけられ、保育者と幼児との間に、固定的な「教え、教えられる関係」が根付いてしまうこともあるようです。幼児は、安心できる環境(保育者も含む)の中でこそ本来の主体性を発揮します。質の高い幼児教育とは、いわゆる早期教育や小学校教育の前倒し学習、保育者が設定した遊びの中で導きたい方向に幼児を引き寄せていくことなどは、全く異なるものです。まずは、園内での共通理解を図りましょう。

C児は、登園するといつもすぐにお気に入りの材料を見付け、製作することから遊び出します。この日は、ストローとペーパーの芯を貼り合わせ、注射器を作りました。「見て！」と、微笑みかけてきたC児に、保育者が「その広いところ(ままごとコーナー)使う？」と尋ねると、勢いよく頷き、ごさを敷き始めました。「あっ、点滴、お薬するやつ」と、遊びながら自分の経験を思い出し、次々つぶやくC児の言葉一つ一つを保育者は丁寧に聞き取り、援助につなげました。

#いろいろな素材と道具の配置
#子供が取りたくるように



#点滴のイメージ
#すずらんテープ
#片段ボール#再利用



はい、点滴します

#布#ごさ

#ガーゼのイメージ
#廃材は全て各家庭からの協力#連携



#点滴

3歳児後半になると、やりたいことがはっきりとし、自分なりの遊びのイメージをもつ子も増えてきます。自分で好きな場所を選び、場を構成する姿も多くなります。幼児なりにイメージを実現していく過程に保育者は丁寧に寄り添い、一緒に動いたり考えたりしながら、幼児の遊びを理解していきます。

見立てから遊びが始まったり、遊びながらイメージに合うものを作ったりしながら、幼児は遊びを進めます。3歳児の保育室には、扱いやすい素材(形状・量・種類)や、イメージに合わせてすぐに変身できるグッズを準備しておくのもよいでしょう。

#自分で身につけられる#帽子
#エプロン#おんぶ紐#風呂敷



Q 子供が自由に遊び出したままに任せ、安全に配慮して、見守ることが何よりも大切ですか？



A 「幼児に自由な時間を与えるだけでは、教育は成り立ちません。保育者は、幼児が何に関心を抱いているのか、何を楽しんでいるのか、何に行き詰まっているのかを目の前の姿から捉え、幼児の発達を見通しながら、育ちへの願いを意図的に環境に盛り込んだり、直接的に援助をしたりします。しかしながら、活動の主体は幼児です。幼児の主体性と保育者の意図性のバランスが大切です。」



ちょっと、足がいたくて…

胸の音を聞きますね

#薬#紙材

#包帯#ナイロン袋

保育室は限られた空間であるため、使い方が難しい場合があります。実践例⑤では、元々ままごとコーナーや絵本コーナーとして置かれていた場所を、幼児の求めに応じ、保育者が一緒に場を構成・再構成していったことで、幼児にとって安心して遊びを展開できる場(遊びの拠点)となりました。環境の構成は固定的なものではありません。例えば □ の写真のように、園庭の「固定遊具」についても、幼児の遊びの状況に応じて、使い方を提案することもできるでしょう(大きな布をかけて基地にする、等)。大切なことは、幼児のやりたいことや、求め、反応、遊びの変化等を保育者が丁寧に見取り、物や場といった物的環境を再構成する(作り直す)などしながら、幼児の発達にとって意味のある状況を、共に作り出していくことです。



固定遊具(雲梯)



ここに寝てくださいね

ダンスをしてきてお腹がいたい

絵本コーナー

#ベッド#大型積み木#場の構成を楽しむ3歳児

#毎日増えるお医者さんの道具#見立てる#表現する

#歯医者の道具#ストロー#箱#ペーパー芯

子供たちが大型積み木で滑り台を作っていました。楽しくなってきたD児は、大きなマットを見つけてくると「これにみんなで乗ってみよう」と提案しました。「せーの！」と、何度も滑って楽しむ4人。でも、距離が短くあっという間に滑り終わってしまうので、何だか少し物足りなさそうです。近頃、いつも決まった場所で決まった遊びばかりだったD児の好奇心が、この遊びをきっかけにさらに広がることを願い、保育者は声を掛けてみることにしました。



#マットで滑る

保育者「もっと広いところでやってみたら、お外とか」
 D児「これ（マット）濡れちゃうね」
 保育者「濡れないもの考える？」
 D児「段ボールとか？」
 保育者「いいね！」
 D児「よしやろう」
 子供たちは、張り切って段ボール探しに、出掛けて行きました。



こういう感じがいいんじゃない？



貼るから、そっちおさえて！

#そり作り #段ボール #協同性 #新たな関わり



Q 幼児期は「遊び」が大切だということを、保護者と共有していくにはどうしたらよいのでしょうか？



A 幼児の心の安定には、家庭との連携が不可欠です。遊びの中でどのような資質・能力が育まれるのか、育まれた資質・能力がどのように小学校以降の教育、そして社会へとつながっていくのか等、「幼児期の教育」についての理解が深まるよう、保護者への配慮が必要です。そのためにも、幼児一人ひとりに応じる、保育（環境）をデザインする、他者（同僚・保護者・小学校等）と協働するなどの専門性が、保育者には欠かせないのです。

例えば、「ドキュメンテーション」に取組み、自発的な遊びの中での育ちを見える化し、保護者に対して遊びの意味や環境を通じた教育の意義について発信している園が県内にも増えてきました。いずれにせよ、遊びや生活の中で何がどう育っているのか等について言語化することができ、実際の姿を紹介しながら保護者に対して自信をもって語れる保育者を、組織的に育てていくことが大切です。

援助をきっかけにして、D児はそり遊びの中心となって活動的に遊びました。さらに、この日以降D児は、興味や関心の幅を広げ、以前よりもいろいろな遊びをするようになりました。また、遊びの広がりと一緒に友達との関係性も広がっていきました。

例えば園の中に、いつもお絵描き遊び、毎日鬼ごっこや遊具遊び等、決まった遊びと固定的な人間関係の中で過ごしている幼児はいないでしょうか。幼児は、自ら発達に必要なものを獲得しようとする力をもっていますが、その力は、「幼児の主体性が存分に発揮される環境の中でこそ一層育まれるもの」という理解が大切です。そのような環境の中では、幼児同士互いに育ち合う姿が多く見られます。環境とは、幼児を取り巻く物的・人的環境、そこに生じている状況全てのことです。

私が押すね！

3、2、1、それ！

できたぞー！
いくぞー！



あれ？止まっちゃった

重いからかな？

1人ずつ乗ってみようよ！

乗る人減らす？



段ボール壊れてきた！

段ボールって結構弱いね



幼児の思いに保育者が丁寧に寄り添い援助したことで、室内遊びが自然と外遊びへとつながっています。室内と戸外が分断された場ではなく、幼児の中でつながる可能性があることに保育者は留意しておく必要があります。



幼児教育と小学校教育を つながりとして捉える

2つの
視点を
紹介します！



「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム」
文部科学省国立教育政策研究所
教育課程研究センター 編者

*本リーフレットでの「幼小」は、「幼児教育と小学校教育」を意味します。
また、幼稚園教師、保育教諭、保育士等を通じて「保育者」と表現しています。

幼小接続の推進には、小学校において、「幼児期における自発的な活動としての遊び」を理解する必要があります。保育参観等を通して幼児教育の様子を知ったり、参観後の意見交換や研修会の機会を計画的に設けたりすることにより、教職員同士で「遊びの中で何が育っているのか」と具体的な姿を共有し、子供の資質・能力をつなぐためのカリキュラムを協働的に編成していくことが大切です。

遊びの意味は、見えにくい
ものです。保育参観の際に
は、解説を添えるなどの工夫
も必要でしょう。



いち 遊びの意味を読み解く

— 保育参観 —

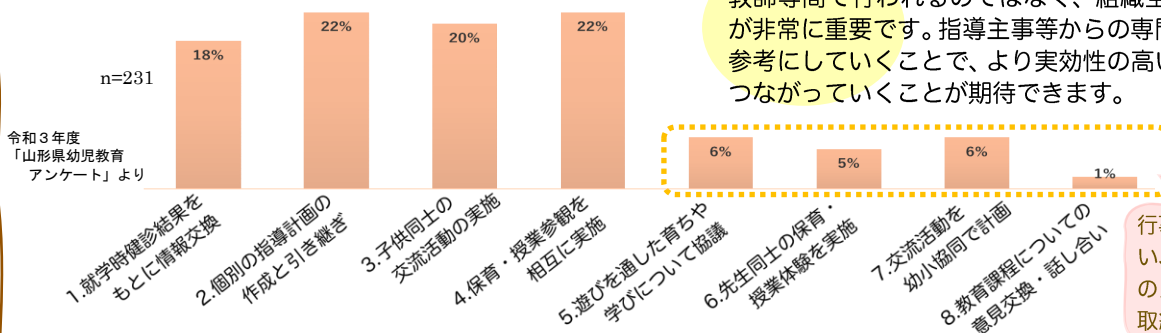
- 幼児期の生活の中心である遊びの様子を参観し、協議する場を設ける。
- 画像や映像、ポートフォリオ等を用いながら、幼児の内面の動きや活動の意味を捉え、遊びの中でその子の何が育っているのか等について、意見交換を行う。
- 保育者が今何を大切に育もうとしているのか、そのためにどんな援助をしているのか、どのような学びにつながっているのか等、幼児の育ちや学びの姿を共有する。

にーい 学びの連続性を共有する

— 授業参観 —

- 小学校の様子を参観し、幼児期の育ちをどのように発揮しているかを共有する。
- 児童が安心して学習を広げていける環境になっているか、「環境を通して行う教育」の視点から意見交換をする。
- 「指示に従っているか」ではなく、「何をどのように学んでいるか」を捉え、協議する。
- 小学校の学びを長期的に見通し、幼児期にふさわしい生活や質の高い保育について協議する。

幼小接続のための協議会等の内容について



幼小接続のための協議会やカリキュラム編成が、一部の教師等間で行われるのではなく、組織全体で動いているかが非常に重要です。指導主事等からの専門的な指導・助言を参考にしていくことで、より実効性の高い内容・取組みへとつながっていくことが期待できます。



行事等での交流にとどまらない、資質・能力をつなぐためのカリキュラム編成に向けた取組みが、今後の課題です。

「育っている」を前提に

ほとんどの小学校では「スタートカリキュラム」が編成され、学校段階等間の接続が図られています。一方で、小学校という場所に単に慣れるカリキュラムや適応指導が中心のカリキュラムから、学びをつなごうというカリキュラムまで、カリキュラムの中身は学校によって様々です。

これからの「スタートカリキュラム」は、園長先生・校長先生のリーダーシップのもと、自発的な活動としての遊びを通して育まれてきた資質・能力を、児童が思う存分に発揮できるように、小学校の教育活動全体を対象として、カリキュラムをデザインしていくことが求められます。

*引用・参考文献：「小学校学習指導要領」「幼稚園教育要領及び解説」「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」「幼児理解に基づいた評価」（いずれも文部科学省）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省） 「保育所保育指針及び解説」（厚生労働省）